

Mitra Clip

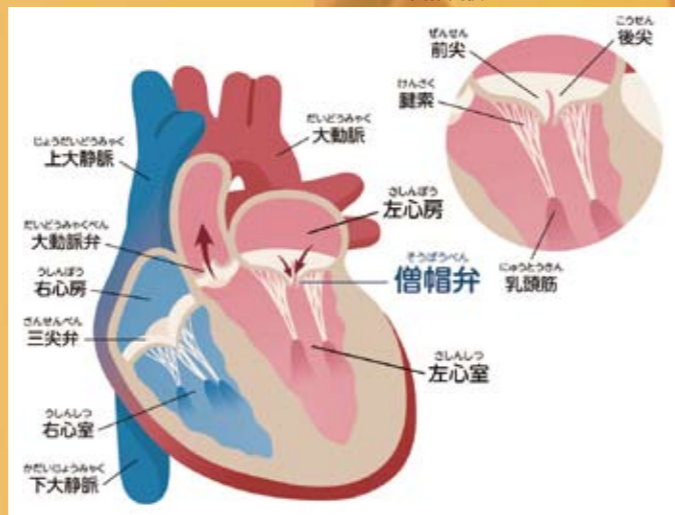
経皮的僧帽弁カテーテル修復術僧帽弁逆流症に対する最新のカテーテル治療
『切らない、カテーテルによる』 画期的治療法 (Mitra Clip) が可能になります。

2019年5月より、開始となります。

手術が困難とされた僧帽弁閉鎖不全症患者様に対して、身体への負担が少なく、早期に社会復帰が可能となります。

僧帽弁閉鎖不全症 (MR:Mitral Regurgitation) とは

心臓には4つの弁があり、心臓の左側に僧帽弁と大動脈弁、右側には三尖弁と肺動脈弁があります。体に栄養や酸素を送るために、心臓は収縮運動をしながらポンプのように血液を送り出しています。このなかで、僧帽弁は左心房と左心室の間にあり、左心房から左心室に血液を送り出し、その送り出した血液が左心房へ戻らないよう心臓の動きに合わせて開いたり閉じたりしています。僧帽弁閉鎖不全症とはその僧帽弁がうまく閉じなくなり血液が左心室から左心房に逆流してしまう症状のことをいいます。



画像提供元：アボットバスキュラー

代表的な症状

- 息切れ ●動悸 ●疲労 ●めまい
- 咳 ●足首の腫れ ●尿量低下

僧帽弁閉鎖不全症について

僧帽弁閉鎖不全症には大きく分けて2種類あります。

- 器質性 (一次性) MR ●機能的 (二次性) MR

器質性 (一次性) MR

僧帽弁の左心室側には僧帽弁の弁尖 (前尖 / 後尖) と乳頭筋をつないでいる紐のような腱索があり、それが何らかの原因で切れる、もしくは延長することで弁尖が下方に引っ張られてしまうことで接合不全が起きて血液が逆流してしまいます。

機能的 (二次性) MR

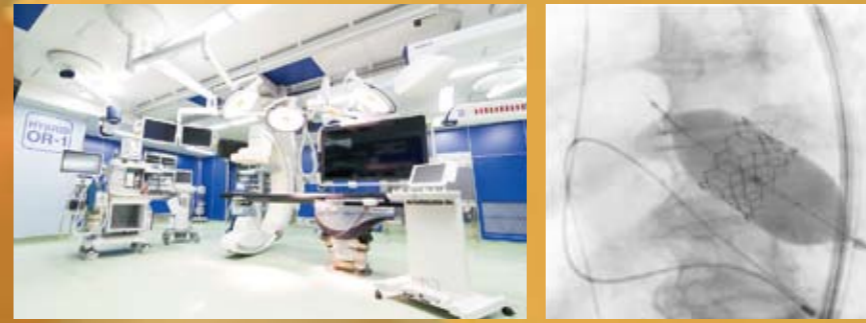
何らかの原因によって心臓が拡大してしまうことで僧帽弁の弁輪が大きくなったり弁尖が下方に引っ張られてしまうことで接合不全が起き血液が逆流してしまいます。



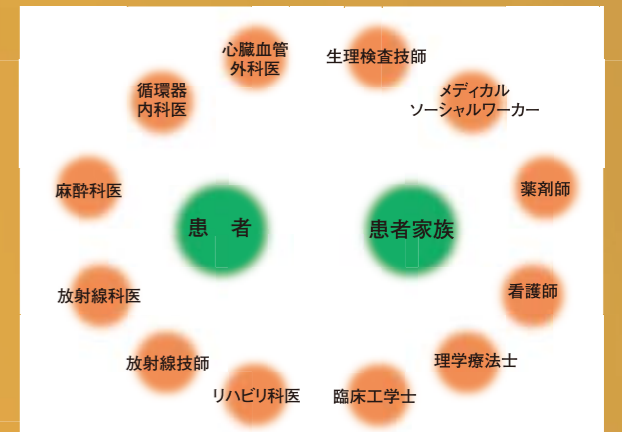
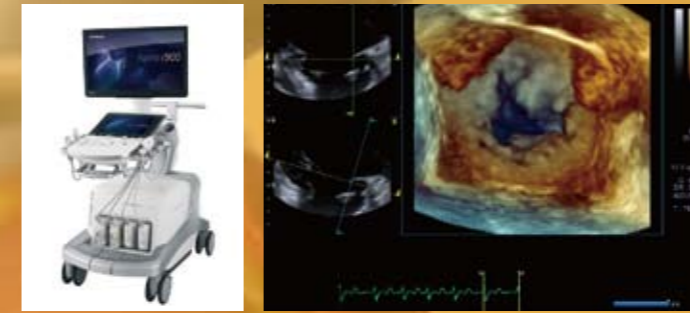
札幌東徳洲会病院の Mitra Clip 治療の特色

① 総合病院の強みをいかした、各科との連携

当院は25診療科を有し、Mitra Clip を担当する科のみならず、院内の多くの診療科のバックアップを受け、患者さんに最善の医療を提供いたします。



② 最新機器を備え、ゆったりとした空間を演出 何よりも患者様を第一に考えたハイブリッド手術室



ハートチームによるサポート

診療科の垣根を越えて、医師やスタッフ同士が話し合い、それぞれの患者様に合った最適な治療法を選択します。

Mitra Clip とは

外科手術が必要で何らかの理由で手術を受けられない患者さんに向けた新しい治療法です。僧帽弁の逆流を軽減することが目的であり、胸を切開する従来の外科手術よりも体にかかる負担が少ないため、年齢や併存症のために、これまで手術を受けることが難しかった患者さんに対しては治療が可能となります。



適応

高度僧帽弁閉鎖不全症の患者さんで年齢や他の疾患などの影響により、これまで手術を受けることが難しかった患者さんが適応となります。

期待される効果

僧帽弁の前尖と後尖をつなぎ合わせ、僧帽弁の逆流を減らすことで心不全症状の改善、生活レベルの向上が期待されます。



世界トップレベルの経験・実績をもつ

湘南鎌倉総合病院総長、循環器科主任部長 齋藤 滋先生 から一言
(当院循環器センター長兼務)

札幌東徳洲会病院 Mitra Clip 施設について

当院は札幌市内のみならず、北海道全域の心臓病特に虚血性心疾患に対して闘病されておられる患者さんに対して、これまで長年に渡り、輝かしい実績を挙げてきました。

さらに、2010年より齋藤 滋が心臓センター長 (湘南鎌倉総合病院総長、循環器科主任部長兼任) に赴任した以降は、不整脈および末梢動脈疾患治療にも診療内容を拡充してきました。そして、2017年から、手術困難な重症大動脈弁狭窄症患者さんに対してのカテーテルを用いた治療である経カテーテル的大動脈弁置込み術 (TAVI) が開始となり、年間150人余りの治療実績をもつ道内一の症例数を誇る病院に成長いたしました。さらに、より低侵襲の治療を目指し、2019年から僧帽弁閉鎖不全症患者さんに対する経カテーテル的僧帽弁接合不全修復術 (MitraClip) が開始となります。今後も齋藤 滋が全面的にサポートし、北海道における弁膜症治療の最前線を担っていくつもりです。

齋藤 滋は日本国内にもまだ数名しか存在しない、TAVI プロクター (植え込み指導医) 資格を有する術者であり、MitraClip においても国内でもトップクラスの症例経験を有する術者であります。年一回東京で開催される学会 PCR TokyoValves の Course Directors の一人であり、弁膜症に対するカテーテル治療の世界的学会である、北米で年一回開催される TVT そして、ヨーロッパで年一回開催される PCR LondonValves、さらには心臓治療の世界的学会である TCT や EuroPCR あるいは CIT においても役員として活躍しています。

私は当科を単なる検査・治療のみを行う診療科のみならず、世界の循環器病学の発展に大きく寄与し続ける診療科として組織してきました。これによって、当科において診療を受けられる患者さんのみならず他の病院で診療を受けられる世界中の患者さんを間接的に治療していきたいと考えています。



札幌東徳洲会病院 2017年の主な実績 / 救急搬送件数 8848件 PCI件数 839件 TAVI件数 108件



- ✓ご不明な点・ご質問などのご相談窓口は、弁膜症コールセンターにて24時間対応となります。(混雑してつながりにくい場合は代表までお願いします。)
- ✓当院では患者様にとって最適な治療方針をハートチームで決定します。
- ✓治療方針決定に際し、数日間の検査入院を予定させていただくことがあります。
- ✓送迎が必要な患者様は、当院で送迎いたします。
- ✓入院中の重症患者様は、ドクターカー (モービルCCU) でお迎えに伺います。

連絡先 弁膜症コールセンター

札幌東徳洲会病院

循環器センターホットライン (24時間対応)

090-5987-5479
(専門医直通)

※電波状況や回線混雑でつながらない場合は
これまでどおり病院代表までお掛けください。

代表 011-722-1110



副院長 循環器内科 部長 山崎 誠治 | 心臓血管外科 部長 上田 高士 | 麻酔科 部長 三澤 学 | 循環器内科 部長 谷 友之 | 循環器内科 医長 竹之内 豪 | 循環器内科 医長 榎田 浩基